令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【野田小学校】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数「知識・技能」において、昨年度本校ptより3pt上昇させる。	⇒	・児童の実態に応じて「100マス計算」に取り組む。毎月記録の日を設定して、自分の取組の成果を振り返る。 ・月1回の「暗唱チャレンジ」で、80%以上の児童が詩を1つ以上合格できるようにする。 ・計算ドリルとスタディサプリ、ドリルパークを授業内に位置付け、基礎的・基本的な技能の向上を図る。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数「思考・判断・表現」において、昨年度本校ptより3pt上昇させる。	⇒	・児童にとって必要感のある課題を設定する。 ・考えを広げたり、深めたりするために、協働的な学びの時間を設ける。 ・単元前後に、学んだこと、できるようになったことを振り返る時間を設ける。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度学校評価アンケート「自分から進んで、学んでいますか。」「いろいろな活動に挑戦していますか」において、肯定的な回答を70%以上にする。	⇒	・スモールステップを大切にした授業づくりを行い、児童の「できた」「分かった」を積み重ねることで、自己肯定感を高める。 ・安心して新しいことに取り組むことができる環境づくりを行う。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	国語では、自分の意見をもち、友達と考えを伝え合うことの大切さを感じている児童が多い。「情報と情報の関係」や「文章の種類とその特徴」についての理解が高く、情報を読み取る力や情報の扱い方に関する理解の深まりがみられた。一方で「漢字を文の中で正しく使う」や「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」の正答率が低く、課題がみられた。また、選択式と比較すると、短答式及び記述式の正答率に差がみられたことから、漢字の習熟を図るとともに漢字を使って、読みやすく、伝わりやすい文章を作ることや、自分の考えを書き表す機会を増やすことなど書く活動をより重視する必要がある。
思考・判断・表現	算数では、算数の学習の大切さと、学んだことが実生活に活かされることを実感している児童の割合が高く、算数を学ぶ必要性を感じていることが分かる。「図形の意味や性質」については正答率が高く、図形の基礎的概念は理解できている。一方で、「伴って変わる二つの数量などの数量の関係に着目して、問題場面を解釈し、数学的に表現・処理する」といった考察する力に課題がある。また、全体的に解答率が高めだが、無解答率も一定数みられた。粘り強く取り組むためにも基礎的な計算力の向上を図るとともに、問題解決に向けて問題を焦点化し、数学的な表現を用いて筋道を立てて説明する学習活動を工夫する必要がある。
主体的に学習に取り組む態度	児童質問紙「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる」「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問に対して肯定的な回答の割合が高く、自ら進んで考えを構築し、意欲的に取り組むことができる傾向がみられる。また、「先生がよいところを認めてくれている」「理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」の設問に対しても高い割合で肯定的な回答がみられ、学校では安心して学習できる環境づくりができていると考えられる。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	・実態に応じて「100問計算」に取り組む。毎月記録の日を設定して自分の取組の成果を振り返る。 ・計算ドリルとスタディサプリ、ドリルパークを授業内に位置付け、基礎的・基本的な技能の向上を図る。 ・算数の授業の最後に、通用問題に取り組む時間を確保する。 ・月1回の「暗唱チャレンジ」で、80%以上の児童が詩を1つ以上合格できるようにする。 ・習った漢字を文章中で使えるように、漢字オリジナルテストを作成し、繰り返し取り組む。
思考・判断・表現	変更なし	⇒	・単元前後に、学んだこと、できるようになったことを振り返る時間を設け、考えの変容に気付けるようにする。考えを広げたり、深めたりするために、協働的な学びの時間を設ける。 ・算数の考察場面で、式・図・言葉などを用いて考えたり、表現したりできるよう、ミニ黒板を活用したグループでの話合い活動を行う。また、グループ間で考えを伝え合う活動を取り入れ、アウトプットする機会をつくる。 ・国語や他教科で学んだことを図などを用いて文章で分かりやすくまとめる機会をつくる。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	・児童にとって必要感のある課題を設定する。 ・スモールステップを大切にした授業づくりを行い、児童の「できた」「分かった」を積み重ねることで、自己肯定感を高める。 ・肯定的な声掛けを意識し、安心して新しいことに取り組むことができる環境づくりを行う。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語＋1pt、算数＋3ptであった。国語では、漢字を文の中で正しく使うことに課題がみられた。指示語の役割や登場人物の性格を想像して文章を読むといった「読むこと」に関する正答率は高かった。算数では、すべての領域で、市平均を上回った。小数の減法の計算に課題がみられた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語＋4pt、算数＋1ptであった。国語では、中心になる語や文を捉えて、文章を読むといった「読むこと」の正答率が高かった。算数では、3位数の乗法や除法の計算や、図形の特徴の理解、データを分類し、説明することについて課題がみられた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より国語＋4pt、算数＋8ptであった。国語では、特に「書くこと」に関する正答率が市平均を上回った。漢字を文の中で正しく使うことには、昨年度より引き続き課題がある。算数では、全領域の正答率が昨年度より平均＋6pt上昇し、基礎学力の向上が見られた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語＋4pt、算数＋8pt、「思考・判断・表現」において、R4年度調査より国語＋3pt、算数＋8ptであった。国語では、学習の目的や意図を考えることができていた。特に「話すこと・聞くこと」の領域は、市平均を上回った。算数では、「図形」の領域の図形を構成する要素や、縮尺に関して課題がみられた。

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数「知識・技能」において、昨年度本校ptより3pt上昇となり、目標を達成することができた。算数の毎授業の初めに100問計算に取り組み、個人の伸びを実感することで、意欲付けができ、基礎学力の向上を図ることができた。児童の実態に合ったオリジナル漢字テストを作成したことで漢字の習熟を図ることができた。	A
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数「思考・判断・表現」において、昨年度比で4pt上昇となり、目標を達成することができた。各教科の授業でペアやグループ活動を積極的に取り入れたことで、自分の考えを整理し、筋道を立てて伝える活動を全学級で実施したことで、協働的な学びにつながった。	A
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度学校評価アンケート「自分から進んで、学んでいますか。」において肯定的な回答が94.3%、「いろいろな活動に挑戦していますか」において肯定的な回答が95.1%となり、目標を達成することができた。児童にとって必要感のある課題を設定したことで、ゴールが明確となり、見通しをもち、学習に取り組むことができた。学習形態を児童が選ぶことで、意欲的に学ぶ環境づくりを行うことができた。	A

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	漢字や計算など基礎基本の知識・技能の定着が図れつつある。しかし、個人差が大きいことから個別に支援を講じていく必要がある。児童の実態に即したオリジナル漢字テスト及び100問計算は引き続き継続する。また、暗唱に取り組む時間を確保する。算数の「図形」領域の正答率が低かったことから、具体物を操作し、図形感覚を養う活動を取り入れる。ICTを活用して作図の仕方をプレゼンテーション形式で動画を作成し、相互評価を行う。
思考・判断・表現	「話すこと」について課題がみられたため、学年に応じた題材の設定や話し方を取り入れた各学年スピーチを行うことで、自分の考えや意見を表現できるようにする。算数の考察場面では、式・図・言葉などを用いて考えたり、表現したりできるよう、ノートの工夫やミニ黒板を活用したグループでの話合い活動を行う。また、グループ間で考えを伝え合う活動を取り入れ、自分の考えを分かりやすく表現する機会を設ける。
主体的に学習に取り組む態度	主体的な学習に取り組む態度を養うために、PDCAサイクルシートを作成する。学習のはじめに、児童自身で目標設定を行い、目標を達成するための取り組みを考え、計画を実行する。計画や実行した結果を振り返り、分析する。自己評価だけでなく、教員や保護者から学習の過程を評価し、認められよう、外部評価も行う。どのように改善すべきか、具体的な案を考え、次につなげるといった流れを確立する。